

## 支援プログラム

### 〈基本情報〉

事業所名	社会福祉法人 各務原市社会福祉事業団 各務原市福祉の里 児童発達支援センター
作成年月日	令和7年 2月 1日
法人理念	『笑顔で 元気に 自分らしく』
目的	運動・ことば・社会性の発達がゆるやかであったり、偏りがみられる又は、医療的ケアが必要な就学前の幼児とその保護者に対し、子どもの全体的な発達を促し、地域の中で生活しやすくなるように支援します。
営業時間	月曜日～金曜日 営業時間 8：30～17：15
送迎	必要に応じて送迎あり

### 〈支援内容〉

本人支援	発達支援：学年によって単独通園、親子通園を行い、小集団により保育します。生活のリズムを整え、基本的な生活習慣（食事・排泄・更衣など）を身につけ、自分でやろうという気持ちを育てます。色々な遊びを通して感覚・運動機能の発達と、人とのコミュニケーションする力を育てます。
家族支援	利用児及びその家族からのいかなる相談にも誠意をもって応じ、安心して子育てができるよう支援します。ペアレント・トレーニングや保護者の方からの申し出に応じ、心理士による心理相談を行います。
地域支援 地域連携	市内保育所と交流保育を行い、子ども同士がお互いに刺激を受け、育ちあえるように支援します。 地域の保健・医療・福祉サービス事業所、幼稚園・保育所・学校等との連携を図り、総合的な発達の支援を行います。 個別交流や市教育委員会との連携、学校への引継ぎ等、必要に応じた情報提供を行います。
行事	利用児の発達支援に必要な各種行事を実施します。※遠足、ファミリーデー、卒園式、市民プール、保護者の交流会、勉強会等
移行支援	お子さんの発達状況に合わせて地域の保育所、幼稚園への就園及び就学に向けて移行支援会議や調整を行います。
職員の質の 向上	県や市、各地で開催される各専門分野における研修会等に参加しています。また、事業団内での職員研修を実施し、知識や技術の向上を図ります。

## 5領域の支援プログラム

児童発達支援計画書は、お子さんの支援を、以下の5つの領域の視点に基づいて作成します。

1. <健康・生活>に関する領域
2. <運動・感覚>に関する領域
3. <認知・行動>に関する領域
4. <言語・コミュニケーション>の獲得に関する領域
5. <人間関係・社会性>人との関わりに関する領域

◎5領域の支援内容は、お互いに関連して成り立っており、重なる部分もあります。

◎お子さんへの支援の大きな目標は、将来、日常生活や社会生活を円滑に営めるようにするためのものであり、子どもの発達段階や特性に応じ、5領域の視点を組み合わせた支援プログラムを提供します。

健康・生活	<ul style="list-style-type: none"><li>●健康状態を把握し、生活リズムを整え、睡眠、食事、排泄等の生活に必要な基本的技能が身に着けられるように支援します。</li><li>・意思表示が難しい子どもたちの小さなサインから心身の変化に気づけるよう支援します。</li><li>・決まった時間に通所することで生活リズムを整えていきます。</li><li>・食事・排泄・着替えなど自分の身の周りのことを、介助に協力したり、自分でできるようにしていきます。</li><li>・歯磨きや手洗いなど衛生面が習慣になるように促します。</li><li>・一人一人に合わせた食形態を提供し、色々なものを主体的に食べる経験を通し、偏食を和らげ、口腔機能を高めます。</li></ul>
運動・感覚	<ul style="list-style-type: none"><li>●自分の体の感覚をしっかりと感じ取り、姿勢を保持し、必要な動作姿勢が取れるよう（運動企画）支援します。また、姿勢保持具などを適切に使用して、どの子どもも様々な活動に、楽しく主体的に参加できるよう支援します。</li><li>・遊びを通して、幼児期に大切な、触覚・固有覚（運動感覚）・前庭覚（バランス感覚）を育てていきます。</li><li>・粗大運動を通して姿勢保持や体幹を育て、日々の生活や手指を使った遊びを通して巧緻性を高めます。</li><li>・感覚受容に過敏さなどの特性があっても、安心して活動に参加できるよう環境調整をします。</li></ul>
認知・行動	<ul style="list-style-type: none"><li>●視覚、聴覚、触覚等の感覚を使い、周りの物事を理解する認知機能の発達を促します。周りの情報を理解し整理して状況に応じた行動につなげることや、物の機能や概念（形・色・大きさ・重さ・数量など）の理解を育てます。</li><li>・生活場面や様々な感覚遊びを通して物の機能や概念などを認知する力を育てていきます。</li><li>・過敏さがあったり運動に制限があるなどで自ら探索行動を起こしにくい子どもには、個々の特性に応じて環境調整し、主体的に探索行動が起きるよう支援します。</li></ul>
言語・ コミュニケーション	<ul style="list-style-type: none"><li>●大人との共感関係を軸に、人に伝えたい気持ちを育て、子どもの発達段階や発達特性に応じたコミュニケーションの方法が獲得できるように支援します。</li><li>・遊びを通して人と同じものに注目したり楽しさを共感したりして、共同注意や三項関係を育てます。</li><li>・理解の手がかりとなる視覚支援（物の提示、指差し、写真や絵カード、文字など）を活用し、見通しを持って行動できるようにします。</li><li>・毎日の繰り返しの中でわかることばを増やし、指示に応じてできることを増やしていきます。</li><li>・話しことばだけでなく、視線、指差し、サイン、カード、コミュニケーション機器などを合わせて、意思表示するためのコミュニケーション手段を獲得できるように支援します。</li></ul>
人間関係・ 社会性	<ul style="list-style-type: none"><li>●身近な人との愛着関係を基盤として、周囲の人と安定した関係を形成するための支援を行います。楽しい遊びを通し、模倣、やりとり、順番などのルールを理解、役割を演じるごっこあそびなど、発達段階に応じた遊び方を提供します。また、集団の中で、大人に支えられながら、感情をコントロールし自分の気持ちに折り合いをつけられるように支援します。</li><li>・視覚的支援を活用し、活動の見通しが持てるようにします。</li><li>・子どもの得意なことや好きなことに大人がじっくりつきあうことで、人に応じる気持ちや、興味の幅を広げて、新しいことに挑戦する力を育てます。</li></ul>